

今月の安全運転管理

管理者の心が育てる運転マナー

①レジャードライブの安全運転を呼び掛けよう

- シートベルトの着用を指導しよう
- 危険運転を防止しよう

②自転車事故防止策を実践しよう

- 自転車利用者に対する教育を実施しよう
- 自転車事故の特徴を周知しよう



すべての座席でシートベルトの着用を徹底

五月は、初夏を迎え爽やかで過ごしやすい季節となります。皆さんの事業所でもGWの大型連休を中心に、車を使い家族でレジャーに出掛ける従業員も多いのではないでしょうか。その際には、すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用を徹底させてください。シートベルト等の着用を徹底させるためには、シートベルト着用の必要性や効果を周知することです。

たとえば、平成二十二年（令和元年）の過去十年間における「自動車後部座席同乗中死者のシートベルト着用・非着用別致死率」をみると、着用しない場合の致死率は着用した場合と比べ、高速道路で約十・七倍と非常に高くなっています。

シートベルトの着用は義務

付けられているからではなく、自分や家族の大切な「命」を守るためであることをしっかりと理解させてください。

ゆとりを持った運行計画を立てるよう指導しよう

連休中の運転には渋滞がつきものですが、長時間車内に閉じ込められると、ドライバーはイライラがちです。心にゆとりがなくなってしまうと、車間距離を詰めて前車をあおったり、交差点に強引に進入するなど、危険な運転につながるおそれがあります。

そのため、従業員には時間にゆとりを持った運行計画を立てるよう指導しましょう。

自転車利用者への教育と事故の特徴を周知しよう

健康意識の高まり等により、自転車通勤を行う従業員もいることでしょうか。そうした自転車利用者に対して、

- ・歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ・夜間はライト点灯
- ・自転車保険に加入等を指導しましょう。

ドライバーには、自転車事故の特徴を周知してください。

愛知県警が発表している過去五年間の交通死亡事故等の分析では、五月は自転車乗用中の死者が多発しています。

その特徴としては、

- ・自転車乗用中の死者のうち七割以上が高齢者
- ・高齢者が運転する自転車の交通事故死者の約七割が出合頭により死亡
- ・高齢自転車の約六割が午前九時から正午までの時間帯に発生

等が挙げられています。そのためドライバーには、見通しの悪い交差点等において、高齢者が運転する自転車の急な飛出し等を予測させましょう。